

道 路

(高速道路の復旧)

1. 常磐自動車道

①箇所名：常磐自動車道の被災箇所

②応急復旧により、平成23年4月28日までに旧警戒区域※にかかる区間（常磐自動車道広野 IC～常磐富岡 IC）を除き一般車両の通行が可能となった。（旧警戒区域にかかる区間は、4月29日までに緊急車両の通行が可能となった。）

※ 平成24年4月1日の区域見直し前の警戒区域

③平成24年12月22日までに本復旧を完了（常磐自動車道広野 IC～常磐富岡 ICを除く）

④旧警戒区域にかかる区間（常磐道広野 IC～常磐富岡 IC）については、環境省が実施する除染工事（平成24年内着手、仮置場の確保を前提に平成25年6月末完了予定）と並行して復旧工事に着手しており、工事発生材等の処理、供用形態、アクセス道路の復旧等について関係機関と調整が整うことを前提に、平成25年度を供用目標として事業を進める。

※なお、復旧箇所以外の常磐自動車道の整備については、

－ 相馬 IC～山元 IC 間：平成26年度

旧警戒区域にかかる以下の区間については、工事発生材の処理、供用形態、アクセス道路の復旧等について関係機関との調整が整うことを前提に

－ 浪江 IC～南相馬 IC 間：平成26年度

－ 常磐富岡 IC～浪江 IC 間：平成26年度供用目標区間から大きく遅れない時期を供用目標として事業を推進。

(直轄国道の復旧)

2. 一般国道6号

①箇所名：一般国道6号の被災箇所

②応急復旧により、平成23年4月10日までに旧警戒区域を除き通行が可能となった。（旧警戒区域内は、12月26日までに2車線を確保。）

③平成25年3月2日に震災による規制箇所は全て解消した。

④平成25年度内に本復旧が完了する予定

(県管理道路の復旧)

3. 県管理道路

○南相馬市エリアの県管理道路

① 道路の状況

避難指示解除準備区域内の路線数（県管理道路）	10路線
うち被災した路線（工区）数	10路線 52箇所
うち本復旧が完了した路線（工区）数	1路線 2箇所
うち応急対策を実施した路線（工区）数	2路線 2箇所
うち本復旧を実施する路線（工区）数	9路線 50箇所

② 復旧の予定

被災箇所10路線52箇所のうち1路線2箇所については、旧計画的避難区域であり平成23年に査定を受け工事完了している。

残る9路線50箇所については、平成24年に査定完了済み。準備が整った箇所から速やかに本復旧工事に着手する。

本復旧工事の完了については、地震災は概ね3年、津波災は今後策定される復興計画との整合を図りながら概ね5年での完了を目指す。

③ 平成24年度における成果

平成23年度に発注した2箇所について、工法の変更を行い工事を完了させた。避難指示解除準備区域において、9路線50箇所の災害査定を完了するとともに、建設副産物の処理方針について調整を図った。
また、津波により流出した幾代橋小高線について、応急工事を実施した。

④ 平成25年度の成果目標

着手可能な地震災について年度内完了を図る。津波災については他事業との調整を行い、工事の早期着手に向けて準備を進める予定。

⑤ その他

工事の実施にあたっては、放射能に汚染された建設工事発生物の処分が問題となっている。

○田村市エリアの県管理道路

① 道路の状況

避難指示解除準備区域内の路線数（県管理道路）	1路線
うち被災した路線（工区）数	1路線 1箇所
うち応急対策を実施した路線（工区）数	0路線 0箇所
うち本復旧を実施する路線（工区）数	1路線 1箇所

② 復旧の予定

被災箇所については、平成24年7月下旬から順次災害査定を受け、採択された箇所については、国が実施する除染や仮置場確保の状況により準備が整った箇所から

速やかに本復旧工事に着手する。

本復旧工事の完了については、概ね3年での完了を目指す。

○広野町エリアの県管理道路

① 道路の状況

旧緊急時避難準備区域内の路線数（県管理道路）	6路線	
うち被災した路線（工区）数	3路線	5箇所
うち応急対策を実施した路線（工区）数	0路線	0箇所
うち本復旧を実施する路線（工区）数	2路線	2箇所

② 復旧の予定

被災箇所については、平成23年に災害査定を受け、うち地震災2箇所は工事完了済みであり、津波災3箇所は、復興計画との整合を図りながら、今後の復旧方法を再検討している。

本復旧工事の完了について、津波災は今後策定される復興計画との整合を図りながら概ね5年での完了を目指す。

③ 平成24年度における成果

平成23年度に発注した2箇所について、工事を完了した。

④ 平成25年度の成果目標

津波災について、他事業との調整を図りながら工事の早期着手に向けて準備を進める予定。

○檜葉町エリアの県管理道路

① 道路の状況

旧緊急時避難準備区域内の路線数（県管理道路）	5路線	
うち被災した路線（工区）数	5路線	20箇所
うち応急対策を実施した路線（工区）数	0路線	0箇所
うち本復旧を実施する路線（工区）数	5路線	20箇所

※現在継続して調査を実施中（広野小高線橋梁1箇所）

② 復旧の予定

平成23年度に被災調査を実施しており、(主)いわき浪江線外4路線で地震・津波による被害が確認された。

本復旧工事の完了について、地震災は概ね3年、津波災は今後策定される復興計画との整合を図りながら概ね5年での完了を目指す。

③ 平成24年度における成果

5路線12箇所について、工事着手した。
建設副産物の処理方針について調整を図った。

④ 平成25年度の成果目標

工事着手した5路線12箇所について、年度内完了を図る。また、2路線7箇所について、他事業との調整を図りながら工事の早期着手に向けて準備を進めるとともに、1路線1箇所について、査定に向けた準備を進める予定。

○飯舘村エリアの県管理道路

① 道路の状況

区域内の路線数（県管理道路）	5路線
うち被災した路線（工区）数	5路線
※現在継続して調査を実施中	

② 復旧の予定

平成23年度に被災調査を一部実施しており、国道399号他4路線で地震による被害が確認され、同年度に10箇所の災害査定を完了した。

避難指示解除準備区域の復旧工事（2箇所）については、平成25年度内の完了を目指す。

③ 平成24年度における成果

避難指示解除準備区域の箇所について、アスファルトの線量調査を実施した。

④ 平成25年度の成果目標

避難指示解除準備区域の復旧工事（2箇所）について、年度内完了を図る。

⑤ その他

居住制限区域及び帰還困難区域の未調査箇所については、放射線量の減衰状況を見極めながら復旧に着手する。

○富岡町エリアの県管理道路

① 道路の状況

区域内の路線数（県管理道路）	5路線
うち被災した路線（工区）数	5路線
※現在継続して調査を実施中	

② 復旧の予定

平成23年度に被災調査を実施しており、小埴上郡山線外2路線が地震・津波による被害が確認された。

避難指示解除準備区域は平成25年度査定に向けて準備を進め、早期の完了を目指す。

居住制限区域と帰還困難区域については、被災箇所の調査が未了であり、除染を含めた

線量の減衰を見極めながら可能な区域より調査および工事を行う。

本復旧工事の完了について、地震災は概ね3年、津波災は今後策定される復興計画との整合を図りながら概ね5年での完了を目指す。

災害復旧区間において、町の上下水道等の復旧箇所がある場合には調整を図り、工事を行う。

③ 平成24年度における成果

災害査定に向けて、避難指示解除準備区域における3路線10箇所について災害調査を行った。

④ 平成25年度の成果目標

避難指示解除準備区域における災害査定を完了させ、着手可能な地震災について年度内完了を図る。

⑤ その他

居住制限区域及び帰還困難区域の未調査箇所については、放射線量の減衰状況を見極めながら復旧に着手する。

○浪江町エリアの県管理道路

① 道路の状況

区域内の路線数（県管理道路） 15路線

うち被災した路線数 7路線

※現在継続して調査を実施中

② 復旧の予定

平成23年度から被災調査を実施しており、国道114号他6路線で地震・津波による被害が19箇所確認された。

避難指示解除準備区域は平成25年6月までに災害査定を受け、早期の完了を目指す。居住制限区域と帰還困難区域については、被災箇所の調査が未了であり、除染を含めた線量の減衰を見極めながら可能な区域より調査および工事を行う。本復旧工事の完了については、地震災は査定から概ね3年、津波災は今後策定される復興計画との整合を図りながら、査定から概ね5年での完了を目指す。

災害復旧区間において、町の上下水道等の復旧箇所がある場合には調整を図り、工事を行う。

災害復旧箇所では今後、ホットスポットが確認された箇所の復旧については、線量調査を行い対応方法や実施時期の検討を行う。

③ 平成24年度の成果

災害査定に向け、復旧する施設の概要計画を策定した。

居住制限・帰還困難区域において、道路状況撮影車両による被災状況の調査を行った。

④ 平成25年度の成果目標

避難指示解除準備区域は平成25年6月までに災害査定を受ける予定。また、着手可能な地震災については、年度内完了を図る。

津波災については、他事業との調整を行い、工事の早期着手に向けて準備を進める予定。

⑤ その他

居住制限区域及び帰還困難区域の未調査箇所については、放射線量の減衰状況を見極めながら復旧に着手する。

○葛尾村エリアの県管理道路

① 道路の状況

区域内の路線数（県管理道路）	4 路線	
うち被災した路線数	4 路線	1 3 箇所
うち応急対策を実施した路線（工区）数	4 路線	1 3 箇所
うち本復旧を実施する路線（工区）数	4 路線	1 3 箇所

② 復旧の予定

平成 2 3 年度に比較的線量の低い箇所について被災調査を実施した結果、国道 3 9 9 号外 3 路線で地震による被害が確認され、同年度に災害査定を完了した。復旧する施設の概要については、建設副産物の処理方法が確定した後に、周辺の除染作業の工程に合わせ、工事を進める。復旧工事については、概ね 3 年での完了を目指す。

帰還困難区域に位置する路線は、線量の低減を見極めながら可能な区域より調査及び工事を行う。

③ 平成 2 4 年度における成果

4 路線 1 3 箇所について、工事着手した。
建設副産物の処理方針について調整を図った。

④ 平成 2 5 年度の成果目標

4 路線 1 3 箇所について、工事の年度内完了を図る。

○川俣町エリアの県管理道路

① 道路の状況

計画的避難区域内の路線数（県管理道路）	3 路線	
うち被災した路線（工区）数	3 路線	1 1 箇所
うち応急対策を実施した路線（工区）数	0 路線	0 箇所
うち本復旧を実施する路線（工区）数	0 路線	0 箇所

② 復旧の予定

復旧箇所の放射線量が高く、掘削残土の移動を地区外に出来ない。また、残土処分地の見通しが立っていないことから事業は未着手となっている。

今後、処分方法が決定次第、復旧工事を実施する。

インフラ復旧の工程表（道路）

平成25年3月末現在

●→ :工程が見込めるもの ●……▶ :工程が現時点で見込みにくいもの

	整備主体	被災/稼働状況	H24年度に実施したこと(成果)	H25年度に実施すること(目標)	H25年度				H26年度				H27年度				H28年度以降	備考・ポイント等
					4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月		
常磐自動車道	東日本高速道路株式会社	平成23年4月28日までに一般車両通行可能 (原発警戒区域内は、平成23年4月29日までに緊急車両通行可能)	平成24年12月22日までに本復旧を完了(常磐自動車道広野IC~常磐富岡ICを除く)	旧警戒区域にかかる区間(常磐道広野IC~常磐富岡IC)については、環境省が実施する除染工事(平成24年内着手、仮置場の確保を前提に平成25年6月末完了予定)と並行して復旧工事に着手しており、工事発生材等の処理、供用形態、アクセス道路の復旧等について関係機関と調整が整うことを前提に、平成25年度を供用目標として事業を進める。	※旧警戒区域(常磐道広野IC~常磐富岡IC)は、環境省の除染事業と並行して工事を進める。													復旧箇所以外の常磐自動車道の整備については、 - 相馬IC~山元IC間 :平成26年度 - 区域排車し前の警戒区域を含む以下の区間については、工事発生材の処理、供用形態、アクセス道路の復旧等について関係機関との調整が整うことを前提に - 浪江IC~南相馬IC間 :平成26年度 - 常磐富岡IC~浪江IC間:平成26年度供用目標 区間から大きく遅れない時期を供用目標として事業を推進。
一般国道6号	国	平成23年4月10日までに福島第一原子力発電所警戒区域を除き通行可能。 原発警戒区域内は、平成23年12月26日までに2車線を確保。	平成25年3月2日に震災による規制箇所は全て解消した。	平成25年度内に本復旧が完了する予定	本復旧													
県管理道路 南相馬市エリア																		
県道12号 原町川俣線(地震)	県(土木部)	1箇所は応急工事により2車線確保 路面クラック	工事完了	-														工事完了
県道34号 相馬浪江線 他8路線(地震)	県(土木部)	路面クラックなど	災害査定の実施 建設副産物の処理方針の調整	災害復旧工事の実施に向けた調整 災害復旧工事の実施	査定 調整	本復旧工事		本復旧工事									建設副産物の処理について調整を図り、平成27年度の完成を目指す。	
県道255号 幾世橋小高線 他3路線(津波)	県(土木部)	道路流失など	災害査定の実施 建設副産物の処理方針の調整 応急工事の実施	災害復旧工事の実施に向けた調整 災害復旧工事の実施	査定 調整	本復旧工事		本復旧工事									復興まちづくり計画に合わせて復旧予定。 H27年度の工事完成を目指す。	
県管理道路 田村市エリア																		
(補助国道) 国道288号線	県(土木部)	路面クラック	順次災害査定受検	除染や仮置き場確保の準備がととのった箇所から工事	査定	本復旧工事		本復旧工事										
県管理道路 広野町エリア																		
県道393号 上北迫下北迫線 他1路線(地震)	県(土木部)	地震による被災(道路)	工事完了	-														
県道391号 広野小高線(津波)	県(土木部)	津波による被災(道路)	-	-														町復興計画との整合を図る必要あり 一廃工
県道391号 広野小高線北釜橋梁	県(土木部)	津波より上部工流失(橋梁)	-	-														町復興計画との整合を図る必要あり 一廃工

●→ :工程が見込めるもの ●.....▶ :工程が現時点で見込みにくいもの

	整備主体	被災/稼働状況	H24年度に実施したこと(成果)	H25年度に実施すること(目標)	H25年度				H26年度				H27年度				H28年度以降	備考・ポイント等								
					4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月										
県管理道路 樹葉町エリア																										
県道35号 いわき浪江線 他4路線	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂、路面流出	5路線12箇所について、工事の実施 建設副産物の処理方針の調整	工事着手した5路線12箇所について、 年度内完了を図る。残る箇所2路線7 箇所について、他事業との調整を図り ながら工事の早期着手にむけて準備を 進める。	●→ 本復旧工事(工事着手した5路線)													5路線・H24年に査定済 残る2路線は未定(要調整)								
県道391号 広野小高線	県(土木部)	落橋	—	査定に向けて準備を進める。	●→ 調査・設計				●.....▶ 査定				●.....▶ 地元調査、詳細設計、国協議				●.....▶ 用地買収				●.....▶ 工事					井出川(河川災)との工程調整が必要
県管理道路 飯館村エリア																										
県道268号 草野大倉島線	県(土木部)	舗装亀裂 H23年度に災害査定済	アスファルトの線量調査	災害復旧工事の実施	●→ 工事													年度内の工事完了を目指す。								
国道399号 他3路線 (拂還困難区域)	県(土木部)	舗装亀裂 H23年度に災害査定済	アスファルトの線量調査	建設副産物処理方針の調整	●.....▶ 建設副産物処理方針の調整				●.....▶ 工事									放射線量の減衰状況を見極めながら復旧に着手する。								
県管理道路 富岡町エリア																										
県道244号小塙上郡山 線 他2路線	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂、路面流出	災害査定のための調査・設計	避難指示解除準備区域における災 害査定を完了させ、着手可能な地 震災について工事の年度内完了を 図る。	●→ 調査・設計				●.....▶ 査定				●.....▶ 工事					警戒区域解除時期等により工程が変更となる。								
県道36号小野富岡線 他1路線	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂、路面流出	—	占用管理者と工程調整を図り、災害査 定に向けた準備を進める	●→ 調査・設計				●.....▶ 査定				●.....▶ 工事					占用管理者の調査工程による								
県管理道路 浪江町エリア																										
県管理道路 (津波被災地区) 長塚請戸浪江線 他1 路線	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂、路面流失	災害査定のための概要計画策定、調 査・設計	災害査定の実施 災害復旧工事着手に向けた調整 災害復旧工事	●→ 査定				●.....▶ 地元調整・詳細設計・国協議				●.....▶ 地買収・工事					平成25年度早期の災害査定に向けて準備を進め、今 後策定される復興計画との整合を図りながら、平成29 年度の完了を目指す。								
県管理道路 (避難指示解除準備区 域) 国道114号 他6路線	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂	災害査定のための概要計画策定、調 査・設計	災害査定の実施 災害復旧工事着手に向けた調整 災害復旧工事	●→ 査定				●.....▶ 地元調整・詳細設計・工事									平成25年度早期の災害査定に向けて準備を進め、地 震災は平成27年度の完了を目指す。								
県管理道路 (居住制限区域) 未調査	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂	道路状況撮影車面による被災状況調 査	周辺区域の減衰状況見ながら調査を 実施する。	●.....▶ 災害査定に向けた準備				●.....▶ 調査・設計・査定・工事									被災箇所調査が未了であり、除染を含めた線量の減 衰を見極めながら、可能な区域より調査および工事を 行う。本復旧工事の完了については、査定後に概ね3年 での完了を目指す。								
県管理道路 (拂還困難区域) 未調査	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂	道路状況撮影車面による被災状況調 査	—														放射線量の減衰状況を見極めながら復旧に着手する。								
県管理道路 葛尾村エリア																										
県管理道路 国道399号他3路線	県(土木部)	路面陥没、路面亀裂	4路線13箇所について、工事着手し た。	4路線13箇所について、工事の年度 内完了を図る。	●→ 工事													高線量区域に位置する路線は被災箇所の調査が未了 であり、線量の減衰を見極めながら、可能な区域より調 査および工事をを行う。								
県管理道路 (拂還困難区域)	県(土木部)	未確認																放射線量の減衰状況を見極めながら復旧に着手する。								
県管理道路 川俣町エリア																										
県管理道路 国道459号他2路線	県	舗装亀裂			●.....▶ 地元調整				●.....▶ 工事									平成23年度に査定済								

※本工程表に記載の内容については軽微な修正を行う場合があります。